

◆巻頭言◆

自然豊かで美しい環境を次世代に繋ぐために

宮崎県衛生環境研究所長 藤崎 淳一郎



昨年度に続き、全国環境研協議会九州支部長を務めさせていただいております。宮崎県衛生環境研究所の藤崎です。この3月で支部長を退任予定であります。これまでの2年間、特に支部会員機関の皆様には積極的な会誌への投稿や被表彰者推薦などに御協力いただきましたことに、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行して2年になろうとしていますが、現在においてもなお、夏場と冬場に感染の波が押し寄せるなど、収束したとは言い難い状況です。当研究所は地方衛生研究所の機関でもあることから、現在も調査を継続して実施していますが、5類移行後も感染力の強い変異株が世界各地や国内でも確認され、感染拡大の懸念があることから、決して油断することはできないと感じている次第です。県民の健康を守るため、引き続き感染状況の把握や関連情報の収集、発信等に努めてまいります。

ところで、本県は緑あふれる山々や美しい海岸線に加え、温暖な気候、豊かな水資源、多様な動植物の生息など素晴らしい自然環境に恵まれています。この自然豊かで美しい環境を次世代に繋いでいくことは、今を生きる私たちの責務です。我々地方環境研究所としましては、様々な課題がある中、できることは限られていますが、課題の解決に向け進んでいく必要があります。

そこで、本県における取組でトピック的なものを、所感を加え二点紹介させていただきます。

まず一点目としまして、本誌第48巻第3号の巻頭言においても言及しましたが、全国各地で大きな問題となっているPFAS等の難分解性有害化学物質の対策を進めていくことです。特にPFASは「永遠の化学物質」と言われているとおり、その難分解性や蓄積性に加え、毒性もあるため、その対策を進めていくことは、公衆衛生の確保という観点から大変重要であると考えています。

令和5年度に、全国的に河川や地下水でPFASによる汚染が確認され、PFOS及びPFOAが暫定指針値を超えて検出される事例が相次いだことを受け、本県では令和5年11月補正予算により、県内の河川及び地下水を対象にPFOS・PFOA・PFHxSについて網羅的な調査を実施しました。

その結果、県央地区の一部地域において地下水が暫定

指針値を超過した地点が確認されました。汚染の原因は不明のようですが、対策として、管轄保健所や地元自治体を通じ、暫定指針値を超過した井戸水利用者に対し飲用を控えていただく等を指導したほか、当面は暫定指針値超過地点を中心にモニタリングを継続する予定です。

現在のところ、このPFOS及びPFOAが暫定指針値を超過した井戸水の摂取に起因する健康被害は確認されていませんが、今後も引き続き、モニタリングを通じて、継続して状況を確認する必要があると考えております。

二点目は「水辺の学習」の推進です。この「水辺の学習」は、子どもたちが身近な水辺の調査を行うことで、子どもたち自らが考え、水辺環境その他環境問題に関心を持ち、環境保全に向けた取組が広がっていくことを目指して、平成28年度から本県で実施しているものです。

「水辺の学習」とは、本県独自の「五感を使った水辺環境指標による水辺調査」（水辺環境調査。指標生物調査のほか、自然の風景・自然の音・水の透明度・水のおい・CODパックテストによる水の調査を指します。）を中心に、「事前学習」と「まとめ・発表」の時間を追加した一連の学習となっているものです。当研究所は、「水辺の学習の推進」において、県内各河川の水生生物の生息状況を調査してきた関係で水辺環境調査の指導者に対する研修に取り組んでおり、主に保健所や市町村の担当者、小中学校教職員を対象に実施しています。今後でもできる限り継続していきたいと考えています。

以上、これからも、自然豊かで美しい環境を次世代に繋ぐ活動を、日々の業務を通じて続けていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。



水辺環境調査のしおり(右)